

教 科	科 目	単位数	学年・クラス (類型)
芸術	音楽 I	2	1 年生選択

1 使用教材

使用教科書	改訂版 Music View (教育出版)
副教材等	

2 学習の目標

1 音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を身に付ける。
2 自己のイメージを表現するための技能を身に付け、創造的な音楽活動の工夫をする。
3 楽曲の文化的・歴史的背景を踏まえて、音楽文化を理解する。

3 評価の観点・方法、規準

評価の観点	内 容	
関心・意欲・態度	音楽や音楽文化に関心をもち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組んでいるか。	
思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるか、について表現意図を持っているか。	
技能	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表しているか。	
知識・理解	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いているか。	
評価方法	実技テストで、音楽表現の創意工夫、音楽表現の技能を、小テスト及び鑑賞プリント・ノートで、鑑賞の能力を、平素の授業で、音楽への関心・意欲・態度を評価します。	
評価の基準	1 学期	実技 (中間・期末) 40%、筆記 (期末のみ) 30%、平常点 30%
	2 学期	実技 (中間・期末) 40%、筆記 (期末のみ) 30%、平常点 30%
	3 学期	実技 (中間・期末) 40%、筆記 (期末のみ) 30%、平常点 30%
	学年	(1 学期成績 + 2 学期成績 + 3 学期成績) ÷ 3

4 学習にあたっての助言

<ul style="list-style-type: none"> 歌唱や器楽などの表現領域は、自己表現の場です。恥ずかしがらず、伸び伸びと表現してください。 鑑賞は、楽曲や友人の演奏を聴いて感じたことに根拠を持って批評してください。 平常点は、授業中の意欲・態度、授業で記入する小テスト及び鑑賞プリント、長期休暇中の課題から主に評価します。プリントはファイルに綴じ、授業の記録をしっかりと取るようにしてください。 実技の評価は、今の自分のレベルからどれだけ努力し上達したかを評価するため、音楽経験の有無に左右されないよう評価を行います。
--

5. 学習計画

学期	月	学 習 内 容	学習のねらい	考査 範囲
1 学期	4	オリエンテーション	<p>校歌を通して、学校の歴史や精神について理解する。 歌詞の言葉の意味、歌詞が表す情景や心情などを曲想と関わらせて感じ取る。</p>	
	5	豊かな歌声をめざして 「アカペラにチャレンジ1」		
	6	ソルフェージュ	<p>楽譜上の各名称やリズム、拍子など音楽の基礎を理解する。</p> <p>お琴でメロディーを演奏できるようにする。また、歌いながら演奏できるようにする。 グループで一緒に伴奏しながら歌うことの楽しさを味わう。</p>	
1 学期	7	世界から見た日本の音楽（器楽）	<p>世界の様々な音色や響きを聴くとともに、文化的・歴史的背景や音楽の特徴を理解する。</p>	
	7	世界から見た日本の音楽（歌唱）		
	8	芸術の秋に向けて	<p>ギターでメロディーを演奏できるようにする。また、歌いながら演奏できるようにする。 アンサンブル活動を通して、グループで一緒に伴奏しながら歌うことの楽しさを味わう。</p>	
9	アンサンブルの楽しみ 「ギター」			
2 学期	10		<p>姿勢や呼吸法・発声法など気をつけて歌う。また、イタリア語の発音や、歌詞の意味を理解して歌唱する。 曲想を歌詞の内容や楽曲の背景、旋律および伴奏の特徴などと関わらせて感じ取り、イメージをもって工夫して歌唱する。</p>	
	11	イタリアの音楽 ドイツの音楽 フランスの音楽		
	12	アンサンブルの楽しみ 「トーンチャイム」	<p>一人一人が責任を持って、一つの音を担当し、アンサンブルの楽しさを学ぶ。</p> <p>歌詞の言葉の意味、歌詞が表す情景や心情などを曲想と関わらせて感じ取る。</p>	
3 学期	1	西洋音楽史	<p>文化的・歴史的背景について理解し、楽曲を鑑賞する。</p> <p>物語と音楽のかかわりを、映像作品における音楽の役割や効果から理解し、音楽と他の文化が互いにどのように影響し合って発展してきたかを考える。</p>	
	2	ミュージカルの世界		
	3	音楽会を開こう 「音楽Ⅰのまとめ」	<p>1年間の学習のまとめとして音楽会を実施する。アンサンブルを通して音楽活動の喜びや楽しさを味わう。</p> <p>合唱で声を響かせ、協力しあいながらアンサンブル活動を楽しむ。</p>	
3 学期		豊かな歌声をめざして 「合唱曲にチャレンジ」		

教 科	科 目	単位数	学年・クラス (類型)
芸術	音楽Ⅱ	2	2年生Ⅰ型選択

1 使用教材

使用教科書	改訂版 Tutti (教育出版)
副教材等	

2 学習の目標

1 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを理解して、主体的に鑑賞する。
2 自己の解釈やイメージを表現するための技能を高め、個性豊かに表現する。
3 楽曲の歴史的・文化的背景を踏まえて、音楽文化の理解を深める。

3 評価の観点・方法、規準

評価の観点		内 容
関心・意欲・態度		音楽や音楽文化に関心を高め、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組んでいるか。
思考・判断・表現		音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを理解して、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるかについて個性豊かな表現意図を持っているか。
技能		創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を高め、個性豊かに表しているか。
知識・理解		音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを理解して、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを主体的に味わって聴いているか。
評価方法		実技テストで、音楽表現の創意工夫、音楽表現の技能を、小テスト及び鑑賞プリントで、鑑賞の能力を、平素の授業で、音楽への関心・意欲・態度を評価します。
評価の基準	1 学期	実技 (中間・期末) 40%、筆記 (期末のみ) 30%、平常点 30%
	2 学期	実技 (中間・期末) 40%、筆記 (期末のみ) 30%、平常点 30%
	3 学期	実技 (中間・期末) 40%、筆記 (期末のみ) 30%、平常点 30%
	学年	(1 学期成績 + 2 学期成績 + 3 学期成績) ÷ 3

4 学習にあたっての助言

<ul style="list-style-type: none"> 歌唱や器楽などの表現領域は、自己表現の場です。歌詞の内容や表現の楽しさが伝わるように表情豊かに歌ってください。 鑑賞は曲を聴いて感じたことだけではなく、楽曲の構成にも視点を置き、根拠を持って述べられるようにしましょう。 平常点は、授業で記入する小テスト及び鑑賞プリント、長期休暇中の課題から主に評価します。プリントはファイルに綴じ、授業の記録をしっかりと取るようにしてください。

5. 学習計画

学期	月	学習内容	学習のねらい	考查範囲
1 学期	4	オリエンテーション		
	5	豊かな歌声をめざして 「独唱にチャレンジ」 リズムックパフォーマンス	物語の情景や登場人物の心情などが、声や楽器、身振りなどによってどのように表現されているかを理解する。 自己のイメージにあった音楽を創造的に創作する。	
	6	世界から見た日本の音楽（器楽）	日本の伝統的な楽器に触れ、音色や奏法の特徴を生かして演奏する。 お琴の生まれた歴史的背景を理解し、楽曲を演奏する。	
	7	世界から見た日本の音楽（歌唱）	世界の様々な音色や響きを聴くとともに、文化的・歴史的背景や音楽の特徴を理解する。	
2 学期	8	豊かな歌声をめざして	歌詞が表している情景や心情を思い浮かべながら歌唱する。 楽曲にふさわしい表現を工夫して歌唱する。	
	9	「デュエットにチャレンジ」		
	10	アンサンブルの楽しみ 「ギター」 イタリアの音楽 ドイツの音楽 フランスの音楽	ギターでストローク奏法を演奏できるようにする。また、弾き語りでも演奏できるようにする。 楽器に触れる楽しさを体感する。他の友人と息を合わせコミュニケーションをとることの喜びを感じる。 曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせて理解し、イメージを持って歌唱をする。	
	11	アンサンブルの楽しみ 「トーンチャイム」	一人一人が責任を持って、一つの音を担当し、アンサンブルの楽しさを学ぶ。	
	12	豊かな歌声をめざして 「三部合唱にチャレンジ」	一人一人が主体的、積極的に歌い、各声部の関わりやハーモニーを意識して、アンサンブルの喜びを味わう。	
3 学期	1 2 3	ミュージカルの世界 「キャッツ」 オペラの世界 「椿姫」 音楽会を開こう 「音楽Ⅱのまとめ」 豊かな歌声をめざして 「合唱曲にチャレンジ」	オペラやミュージカルの特徴と表現上の効果とのかかわりを理解して、それらの文化的・歴史的背景や作曲家に対する理解を深めて鑑賞し、作品のよさやおもしろさ、価値について考える。 演奏発表を行い、演出上の効果も検討しながら音楽会をつくる。 合唱活動に関心を持ち、歌詞の内容と音楽を形づくっている要素のかかわり合いについて理解し、音楽表現を工夫してクラス合唱をする。	

教 科	科 目	単位数	学年・クラス (類型)
芸術	音楽Ⅱ	1	2年生Ⅱ型選択

1 使用教材

使用教科書	改訂版 Tutti (教育出版)
副教材等	

2 学習の目標

1 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを理解して、主体的に鑑賞する。
2 自己の解釈やイメージを表現するための技能を高め、個性豊かに表現する。
3 楽曲の歴史的・文化的背景を踏まえて、音楽文化の理解を深める。

3 評価の観点・方法、規準

評価の観点		内 容
関心・意欲・態度		音楽や音楽文化に関心を高め、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組んでいるか。
思考・判断・表現		音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを理解して、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるかについて個性豊かな表現意図を持っているか。
技能		創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を高め、個性豊かに表しているか。
知識・理解		音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを理解して、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを主体的に味わって聴いているか。
評価方法		実技テストで、音楽表現の創意工夫、音楽表現の技能を、小テスト及び鑑賞プリントで、鑑賞の能力を、平素の授業で、音楽への関心・意欲・態度を評価します。
評価の基準	1 学期	実技 (中間・期末) 40%、筆記 (期末のみ) 30%、平常点 30%
	2 学期	実技 (中間・期末) 40%、筆記 (期末のみ) 30%、平常点 30%
	3 学期	実技 (中間・期末) 40%、筆記 (期末のみ) 30%、平常点 30%
	学年	(1 学期成績 + 2 学期成績 + 3 学期成績) ÷ 3

4 学習にあたっての助言

<ul style="list-style-type: none"> 歌唱や器楽などの表現領域は、自己表現の場です。歌詞の内容や表現の楽しさが伝わるように表情豊かに歌ってください。 鑑賞は曲を聴いて感じたことだけではなく、楽曲の構成にも視点を置き、根拠を持って述べられるようにしましょう。 平常点は、授業で記入する小テスト及び鑑賞プリント、長期休暇中の課題から主に評価します。プリントはファイルに綴じ、授業の記録をしっかりと取るようにしてください。

5. 学習計画

学期	月	学習内容	学習のねらい	考查範囲
1 学期	4	オリエンテーション		
	5	豊かな歌声をめざして 「独唱にチャレンジ」 リズムックパフォーマンス	物語の情景や登場人物の心情などが、声や楽器、身振りなどによってどのように表現されているかを理解する。 自己のイメージにあった音楽を創造的に創作する。	
	6	世界から見た日本の音楽（器楽）	日本の伝統的な楽器に触れ、音色や奏法の特徴を生かして演奏する。 お琴の生まれた歴史的背景を理解し、楽曲を演奏する。	
	7	世界から見た日本の音楽（歌唱）	世界の様々な音色や響きを聴くとともに、文化的・歴史的背景や音楽の特徴を理解する。	
2 学期	8	豊かな歌声をめざして	歌詞が表している情景や心情を思い浮かべながら歌唱する。 楽曲にふさわしい表現を工夫して歌唱する。	
	9	「デュエットにチャレンジ」		
	10	アンサンブルの楽しみ 「ギター」 イタリアの音楽 ドイツの音楽 フランスの音楽	ギターでストローク奏法を演奏できるようにする。また、弾き語りでも演奏できるようにする。 楽器に触れる楽しさを体感する。他の友人と息を合わせコミュニケーションをとることの喜びを感じる。 曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせて理解し、イメージを持って歌唱をする。	
	11	アンサンブルの楽しみ 「トーンチャイム」	一人一人が責任を持って、一つの音を担当し、アンサンブルの楽しさを学ぶ。	
	12	豊かな歌声をめざして 「三部合唱にチャレンジ」	一人一人が主体的、積極的に歌い、各声部の関わりやハーモニーを意識して、アンサンブルの喜びを味わう。	
3 学期	1 2 3	ミュージカルの世界 「キャッツ」 オペラの世界 「椿姫」 音楽会を開こう 「音楽Ⅱのまとめ」 豊かな歌声をめざして 「合唱曲にチャレンジ」	オペラやミュージカルの特徴と表現上の効果とのかかわりを理解して、それらの文化的・歴史的背景や作曲家に対する理解を深めて鑑賞し、作品のよさやおもしろさ、価値について考える。 演奏発表を行い、演出上の効果も検討しながら音楽会をつくる。 合唱活動に関心を持ち、歌詞の内容と音楽を形づくっている要素のかかわり合いについて理解し、音楽表現を工夫してクラス合唱をする。	

教 科	科 目	単位数	学年・クラス (類型)
芸術	音楽Ⅲ	3	3年生 I型選択

1 使用教材

使用教科書	改訂版 音楽Ⅲ (教育出版)
副教材等	

2 学習の目標

1	音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情と、音楽文化を尊重する態度を身に付ける。
2	楽曲の表現内容を総合的に理解し、表現意図をもって創造的に演奏する能力を高める。
3	音楽と他の芸術や文化とのかかわりを理解し、我が国の音楽文化を継承し創造していく態度を養う。

3 評価の観点・方法、規準

評価の観点		内 容
関心・意欲・態度		音楽や音楽文化を理解し、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組んでいるか。
思考・判断・表現		音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを理解して、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるかについて創造的な表現意図を持っているか。
技能		創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を深め、創造的に表しているか。
知識・理解		音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを理解して、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを主体的に味わって聴いているか。
評価方法		実技テストで、音楽表現の創意工夫、音楽表現の技能を、小テスト及び鑑賞プリントで、鑑賞の能力を、平素の授業で、音楽への関心・意欲・態度を評価します。
評価の基準	1 学期	実技 (中間・期末) 40%、筆記 (期末のみ) 30%、平常点 30%
	2 学期	実技 (中間・期末) 40%、筆記 (期末のみ) 30%、平常点 30%
	3 学期	実技 (中間・期末) 40%、筆記 (期末のみ) 30%、平常点 30%
	学年	(1 学期成績 + 2 学期成績 + 3 学期成績) ÷ 3

4 学習にあたっての助言

<ul style="list-style-type: none"> 歌唱や器楽などの表現領域は、自己表現の場です。歌詞の内容や表現の楽しさが伝わるように、感情を込めて歌ってください。 鑑賞は曲を聴いて感じたことだけではなく、楽曲の構成や音楽の特徴、音楽の歴史的背景にも視点を置き、根拠を持って述べられるようにしましょう。 平常点は、授業で記入する小テスト及び鑑賞プリント、長期休暇中の課題から主に評価します。プリントはファイルに綴じ、授業の記録をしっかりと取るようにしてください。
--

5. 学習計画

学期	月	学 習 内 容	学習のねらい	考査 範囲
1 学期	4	弾き語りの魅力	<p>楽曲の表現内容を総合的に理解し、表現意図をもって創造的に歌唱する。</p> <p>様々な表現形態による歌唱の特徴を理解し、表現上の効果を生かして歌唱する。</p>	
	5			
	6	様々な表現形態を生かした合奏をしよう	様々な表現形態による楽曲を選択し、リコーダー、ギター、キーボード等の音色や奏法の特徴を生かして、個性豊かにアンサンブルする。	
2 学期	7			
	8	プレゼンテーション 「世界の音楽」	<p>声や楽器の音色の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解して鑑賞し、楽曲の文化的・歴史的背景について理解を深め、音楽の多様な価値について紹介し合う。</p>	
	9			
	10	外国語の語感を生かした歌唱の工夫	ドイツ語、イタリア語、フランス語の発音や言葉の特徴と表現上の効果とのかかわりあいを理解しながら、工夫して個性豊かに歌う。	
11	ポピュラー音楽と私たち	様々なポピュラー音楽に興味を持ち、その発展について理解して歌う。		
3 学期	12			
	1	ファイナルコンサートを開こう！	個人・グループで選んだ楽曲や創作した楽曲を発表し、音楽のよさや楽しさを味わって生涯にわたり音楽を愛好していく姿勢を養う。	
	2			
3				

教 科	科 目	単位数	学年・クラス (類型)
芸術	美術 I	2	1 年生選択

1 使用教材

使用教科書	美術 I (光村図書)
副教材等	

2 学習の目標

- 1 幅広い創造活動を通して、個性豊かな能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。
- 2 美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる。
- 3 友達の作品のよさや美しさを味わい、お互いを認め、尊重し合うことができる。

3 評価の観点・方法、規準

評価の観点	内 容	
美術への 関心・意欲・態度	美術の創造的活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に感心をもち、主体的に表現や観賞の創造活動に取り組もうとする。	
発想や構想の能力	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や美しさなどから主観を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	
創造的な技能	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、意図に応じて、表現方法を工夫している。	
鑑賞の能力	美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。	
評価方法	平素の授業で美術への感心・意欲・態度を、作品制作や各課題で発想や構想の能力、創造的な技能を、作品発表や作品鑑賞で観賞の能力を評価します。	
評価 の 基 準	1 学期	平常・鑑賞 30%、作品 40%、小テスト 30%
	2 学期	平常・鑑賞 30%、作品 40%、小テスト 30%
	3 学期	平常・鑑賞 30%、作品 40%、小テスト 30%
	学年	(1 学期成績+2 学期成績+3 学期成績) ÷ 3

4 学習にあたっての助言

- ・作品制作中は自分なりに創意工夫をし、諦めずに最後まで取り組んでください。
- ・道具を使うときは、正しい使い方や安全に気をつけて使用してください。
- ・美しいもの・工夫の凝らしたデザインは生活のすぐ傍にあるので、生活を入り口に作品制作に向き合ってください。
- ・作品鑑賞は、「いいね!」と思う点を見つけ、そこからどうしてそのように感じたのか考えを深めてください。

5. 学習計画

学期	月	学 習 内 容	学習のねらい	考查 範囲
1 学期	4	(観賞／全) オリエンテーション	教科書を参考にしながら、高校で学ぶ内容を確認する。	
	5	(表現／デザイン) 文字とデザイン 色の特徴を知ろう	丁寧にレタリングをし、既存の文字の工夫や美しさを理解し、主題にそった表現をする。 色の基本、配色の手法を学習することで、効果的な表現方法を身に付ける。	
	6	(表現／デザイン) アクリルガッシュで描く	アクリル絵の具の特徴を理解し、むら無く塗ることができる。	
	7	(観賞／デザイン) ポスターについて (表現／デザイン) ポスターのデザイン	ポスターを観賞し、メッセージを伝える工夫を考える。 メッセージ性の強いデザインになるよう、アイデアスケッチをし、構図、図柄、キャッチコピー、配色を工夫する。	
2 学期	8 9	(表現／絵画・彫刻) 身近なものを描く	身近なものを見つめなおし、美しさやおもしろさを見つける。物の形や質感を意識し、画材を効果的に使い描く。	
	10	(表現／絵画・彫刻) 土から生まれる彫刻	素材や道具の特徴を理解しモチーフの立体感や量感をとらえ、細部を丁寧に表すことができる。 作品のよさを自分の言葉で表現し伝え合うことができる。	
	11	(観賞／絵画・彫刻) 空間との対話	周囲の環境との調和を意識した作品を鑑賞し、具体的な場所を想定した作品の配置計画を考える。	
	12	(観賞／絵画・彫刻) 日本美術の白と黒 (表現／絵画・彫刻) 光と陰影を描く	モノトーン表現による作品を鑑賞し、日本美術の特徴である簡素化や単純化について知り、それらが現代にもつながる美意識であることへの理解を深める。 光と陰影の対比を生かして書いた作品を鑑賞し、光の描きかたの工夫と効果を知り自分の表現につなげる。	
3 学期	1	(観賞／全) 美術史年表	絵画の変遷を理解し、美しさや特徴を自分の言葉で記述することができる。	
	2	(観賞／全) まとめ	1年間の振り返りをし、自分自身や友達作品のよさを認め合うことができる。	
	3			

教 科	科 目	単位数	学年・クラス (類型)
芸術	美術Ⅱ	2	2年生Ⅰ型選択

1 使用教材

使用教科書	美術Ⅱ (光村図書)
副教材等	

2 学習の目標

<ol style="list-style-type: none"> 幅広い創造活動を通して、個性豊かな能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。 美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる。 友達の作品のよさや美しさを味わい、お互いを認め、尊重し合うことができる。
--

3 評価の観点・方法、規準

評価の観点	内 容	
美術への 関心・意欲・態度	美術の創造的活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に感心をもち、主体的に表現や観賞の創造活動に取り組もうとする。	
発想や構想の能力	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や美しさなどから主観を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	
創造的な技能	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、意図に応じて、表現方法を工夫している。	
鑑賞の能力	美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。	
評価方法	平素の授業で美術への感心・意欲・態度を、作品制作や各課題で発想や構想の能力、創造的な技能を、作品発表や作品鑑賞で観賞の能力を評価します。	
評価の 基準	1 学期	平常・鑑賞 30%、作品 40%、小テスト 30%
	2 学期	平常・鑑賞 30%、作品 40%、小テスト 30%
	3 学期	平常・鑑賞 30%、作品 40%、小テスト 30%
	学年	(1 学期成績+2 学期成績+3 学期成績) ÷ 3

4 学習にあたっての助言

<ul style="list-style-type: none"> ・作品制作中は自分なりに創意工夫をし、諦めずに最後まで取り組んでください。 ・道具を使うときは、正しい使い方や安全に気をつけて使用してください。 ・美しいもの・工夫の凝らしたデザインは生活のすぐ傍にあるので、生活を入りに作品制作に向き合ってください。 ・作品鑑賞は、「いいね!」と思う点を見つけ、そこからどうしてそのように感じたのか考えを深めてください。
--

5. 学習計画

学期	月	学 習 内 容	学習のねらい	考查 範囲
1 学期	4	(観賞／全) オリエンテーション	教科書を参考にしながら、1年間の授業予定を確認する。	
	5	(表現／デザイン) 色を選ぶ	色の持つ役割や配色の効果について考え、特徴や仕組みを把握することで、作品の制作やデザインに生かすことができる。	
	6	(表現／デザイン) 情報を視覚化するデザイン	伝えたい情報を整理し、形や色の使い方を工夫してデザインすることができる。	
	7			
2 学期	8	(表現／絵画・彫刻) 見えるものの向こうに	周りのものを深く見つめ、表面的な形や色だけではなく、物の量感や質感を表すことができる。	
	9			
	10	(表現／絵画・彫刻) 版画の世界	鮮明な色彩表現の魅力を味わい、構想を練り見通しを立てた制作をする。	
	11	(表現／絵画・彫刻) 絵の意味を読み解く	宗教画やモチーフに意味の込められた静物画を鑑賞し、描かれたものに込められた寓意や象徴を求め意味を読み解き、見方を広める。	
3 学期	1	(観賞／絵画・彫刻) 作家の生涯と作品	オーギュスト・ロダンの作品を鑑賞し、その特徴をとらえ、作者の意図や表現の工夫を読み取り、言葉にする。	
	2	(表現／絵画・彫刻) 発想のための素描	イメージを形にしていく素描の大切さを学び、作品を発想する手がかりにする。	
3	(表現／絵画・彫刻) 身近な素材で作る	身の回りの素材の形や色の特徴を生かし、アイデアスケッチで全体の構想を練り作品を作る。		
		(観賞／全) まとめ	1年間の振り返りをし、自分や相手の作品のよさを言葉にする。	

教 科	科 目	単位数	学年・クラス (類型)
芸術	美術Ⅲ	3	3年生 I型選択

1 使用教材

使用教科書	美術Ⅲ (光村図書)
副教材等	

2 学習の目標

- 1 幅広い創造活動を通して、個性豊かな能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。
- 2 美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる。
- 3 友達の作品のよさや美しさを味わい、お互いを認め、尊重し合うことができる。

3 評価の観点・方法、規準

評価の観点	内 容	
美術への 関心・意欲・態度	美術の創造的活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に感心をもち、主体的に表現や観賞の創造活動に取り組もうとする。	
発想や構想の能力	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や美しさなどから主観を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	
創造的な技能	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、意図に応じて、表現方法を工夫している。	
鑑賞の能力	美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。	
評価方法	平素の授業で美術への感心・意欲・態度を、作品制作や各課題で発想や構想の能力、創造的な技能を、作品発表や作品鑑賞で観賞の能力を評価します。	
評価の 基準	1 学期	平常・鑑賞 30%、作品 40%、小テスト 30%
	2 学期	平常・鑑賞 30%、作品 40%、小テスト 30%
	3 学期	平常・鑑賞 30%、作品 40%、小テスト 30%
	学年	(1 学期成績+2 学期成績+3 学期成績) ÷ 3

4 学習にあたっての助言

- ・作品制作中は自分なりに創意工夫をし、諦めずに最後まで取り組んでください。
- ・道具を使うときは、正しい使い方や安全に気をつけて使用してください。
- ・美しいもの・工夫の凝らしたデザインは生活のすぐ傍にあるので、生活を入り口に作品制作に向き合ってください。
- ・作品鑑賞は、「いいね!」と思う点を見つけ、そこからどうしてそのように感じたのか考えを深めてください。

5. 学習計画

学期	月	学 習 内 容	学習のねらい	考査 範囲
1 学 期	4	(観賞／全) オリエンテーション	教科書を参考にしながら、1年間の授業予定を確認する。	
	5	(表現／デザイン) 文字のデザイン	レタリングの振り返りをし、文字の制作の工夫やルールを考え自分なりの文字を制作しポスターに表現する。	
	6	(観賞／デザイン) 作家の生涯と作品 田中一光	田中一光の生涯と作品を通じて、デザイナーの仕事の幅広さを知り、日本の伝統文化をモダンデザインに取り込む手法を学ぶ。	
	7	(表現／デザイン) ポスターのデザイン	構図や色彩を工夫し美しく見やすいポスターをデザインする。	
2 学 期	8	(表現／絵画・彫刻) 響きあうイメージ	過去の作品や他の地域の文化から影響を受けた作品を鑑賞する。身近な文化を調べ、それを元に作品を制作する。	
	9			
	10	(観賞／絵画・彫刻) 鉛筆画の作品鑑賞 (表現／絵画・彫刻) 鉛筆の可能性	鉛筆のみで描いた作品を鑑賞し、素材の幅広さと見せ方の工夫を学ぶ。 モチーフの素材や量感をじっくりと観察し表現をする。鉛筆ならではの表現と味わいに関心を持ち、表現意図に合わせた工夫をしてあらかず。	
	11	(観賞／絵画・彫刻) ショートムービーをつくる	テーマを基に構想を練り、映像ならではの表現の効果を生かして作品をつくる。	
3 学 期	1	(観賞／絵画・彫刻) 作家の生涯と作品 岡本太郎 (表現／絵画・彫刻) 感情と向き合う	岡本太郎の生涯と作品を理解し、興味関心を作品制作に取り入れる手法を学び、これからの制作に生かすことができる。 自己の内面を深く見つめ、感情から主題を生み出し表現方法の幅を広げる。	
	2	(観賞／全) まとめ	1年間のふりかえりをし、自分や友達の仕事のよさを認め合う。	
	3			